

セッション名：サテライトシンポジウム第2回アブレーション・デバイスサミット  
第1部 アブレーション治療最前線

座長：住友 直方（日本大学医学部小児科学系 小児科学分野）  
櫻田 春水（東京都保健医療公社 大久保病院）

アブレーション・デバイスサミットは今回で2回目を迎える。このサミットではアブレーションとデバイス治療の最前線を紹介するが、第1部ではアブレーションの今後の方向性を考える。

第1席では、stereotaxis robotic navigation systemについて講演をお願いした。このシステムは磁気によるカテーテル遠隔操作でアブレーションを行うものである。欧米では臨床研究が始まっており、今後の本邦での普及に期待がかかる。

第2席ではバルーンによる心房細動治療について講演をお願いした。バルーンによるエネルギー供給方法として、熱によるホットバルーン、冷却によるクライオバルーンがあるが、利点、欠点などを知っておくことは有意義と思われる。これらの方法が普及することで、現在の高周波カテーテルアブレーションによる治療から、大きな変革をもたらされる可能性がある。

第3席では、現在ホットな話題である Brugada 症候群に対するカテーテルアブレーションについて講演をお願いした。今までは ICD しか突然死予防方法がなかった Brugada 症候群に対し、今後大きな変革をもたらす可能性がある治療法といえる。

多くの方の参加を心からお待ちしている